

産業廃棄物処理実態調査票【その1】

建設業以外

愛知県

調査票番号

ID:
パスワード:

1. 本調査は、事業活動によって発生する産業廃棄物、有償あるいは無償で引渡している副産物の全てが対象となります。
2. 本調査の対象期間は令和6年度（令和6年4月1日～令和7年3月31日）です。
3. 本調査は事業所単位で行いますので、調査票が送付された事業所に関して以下の質問にお答え下さい。
そのため、貴事業所以外に貴社の本社、工場、関連施設等があってもそれは調査の対象となりません。
4. 調査票（その2）に貴事業所から発生する産業廃棄物の状況について記入して下さい。産業廃棄物が調査の対象期間中に何も発生しなかった場合は、本調査票（その1）の「事業所の概要」、「事業の概要」欄をご回答の上、ご返送下さい。

事業所の概要

事業所名

所在地

代表者氏名

記入者
ふりがな
(部課、氏名)

記入年月日

令和 年 月 日

電話番号

— —

事業内容

(具体的に)

事業の概要

従業員数

製造品出荷額(製造業のみ記入)

事業所の形態

令和7年3月31日現在の従業員数
(パート等の臨時職員及び役員等を含む)を記入して下さい。

令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間の額を記入して下さい。

貴事業所の形態に対する番号に○を付けて下さい。

千億 百億 十億 億 千万 百万 十万 万

1. 工場・作業所・鉱業所
2. 開発研究のみ
3. 事務所のみ
4. 医療機関
5. その他 ()

人

万円/年

病床数(医療機関のみ記入)

販売額(卸売業、小売業のみ記入)

令和7年3月31日現在の病床数を記入して下さい。

令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間の額を記入して下さい。

千億 百億 十億 億 千万 百万 十万 万

床

万円/年



令和6年度の1年間に産業廃棄物等は発生しましたか。該当する番号に○を付けて下さい。
※再生利用された物、有償又は無償で引き渡している副産物も対象として下さい。

1. 発生した。 2. 発生しなかった。 次へ

「事業所の概要」「事業の概要」を記入し、返送して下さい。

裏面の調査票（その2）に貴事業所から発生した産業廃棄物等について記入して下さい。

産業廃棄物の量について

産業廃棄物の量の単位は、重量（t 又は kg）で記載して下さい。
容積（m³ 又は ℓ）で把握している場合は、重量に換算して下さい。
換算するための密度が分からない場合は、以下の「重量換算表」を参考にして下さい。
この場合、容積の数値に重量換算表の数値を掛け算することで、重量が求まります。
例. 燃え殻が 10 m³発生した場合 → 10 m³×1.14 t/m³ = 11.4 t
調査票には「11.4 t」と記入して下さい。

重量換算表			
品 目	密 度 (t/m ³ 又は kg/ℓ)	品 目	密 度 (t/m ³ 又は kg/ℓ)
燃え殻	1.14	金属くず	1.13
汚泥	1.10	ガラスくず、コンクリートくず 及び陶磁器くず	1.00
廃油	0.90		
廃酸	1.25	鋳さい	1.93
廃アルカリ	1.13	がれき類	1.48
廃プラスチック類	0.35	動物のふん尿	1.00
紙くず	0.30	動物の死体	1.00
木くず	0.55	ばいじん	1.26
繊維くず	0.12	13号廃棄物	1.00
動植物性残さ	1.00	混合物	1.00
動植物系固形不要物	1.00	感染性廃棄物(容器を含む)	0.30
ゴムくず	0.52		

産業廃棄物処理実態調査票【その2】

建設業以外

<令和6年度実績>

- 別紙の「調査票の記入例」、「廃棄物分類表」を参考に記入して下さい。
- 自社で発生した産業廃棄物と副産物全てが対象となります。再生利用、売却をしている場合も記入して下さい。

①廃棄物等の名称
貴事業所で日常使用している名称を記入して下さい。

②分類番号
別紙の「廃棄物分類表」から該当する4ケタの番号を記入して下さい。

③年間発生量（中間処理する前の量）
各行ごとに1年間の発生量を、焼却や脱水などの中間処理を行う前の量で記入して下さい。なお、単位は該当するものを選び、○で囲んで下さい。産業廃棄物の量の単位は、重量（t又はkg）で記載して下さい。容積（m³又はℓ）で把握している場合は、表面の「重量換算表」を参照して重量に換算して下さい。

④（自社での中間処理の）方法番号
該当する処理方法の記号を下欄の「中間処理方法コード表」から選んで、中間処理を行った順に記入して下さい。

⑤中間処理後の量
中間処理後の残さ量を記入して下さい。なお、単位は該当するものを選び、○で囲んで下さい。

⑥処理・処分の方法
発生した廃棄物（自社での中間処理がある場合、中間処理後の廃棄物）の処理・処分方法を下欄の「処理・処分方法コード表」から選んで、その記号を記入して下さい。

⑦処理・処分先又は再生利用先の名称
処理・処分（⑥に該当する）等を行った先の名称を記入して下さい。

⑧処理・処分先又は再生利用先の所在地
処理・処分（⑦に該当する）等を行った先の所在地を記入して下さい。所在地コードについては、別紙の「所在地コード表」から該当する4ケタの番号を記入して下さい。

⑨（委託中間処理の）方法番号
「⑥処理・処分の方法」で「X1」と回答された方だけお答え下さい。委託先の中間処理内容に該当する番号を下欄の「委託中間処理方法コード表」から選んで、中間処理を行った順に記入して下さい。

⑩委託中間処理後の処分方法
該当する内容の番号を下記から選んで、○で囲んで下さい。
1. 再利用・再生利用（リサイクル）した。
2. 県内の最終処分場で埋立処分した。
3. 県外の最終処分場で埋立処分した。
4. 海洋投入処分した。

⑪資源化の用途
「⑥処理・処分の方法」で「V1、V2、W1、X2、R6」又は前問「⑩委託中間処理後の処分方法」で「1」と回答された方だけお答え下さい。
下欄の「資源化用途コード表」から該当する番号を選んで記入して下さい。

		廃棄物、副産物の発生量										自社での中間処理										自社処分・自社再利用、委託処理										委託中間処理				自社・委託での資源化																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
区分		①廃棄物等の名称		②分類番号		③年間発生量								④方法番号			⑤中間処理後の量							⑥処理・処分 の方法		⑦処理・処分先又は再生利用先の名称		⑧処理・処分先又は 再生利用先の所在地		所在地 コード		⑨方法番号			⑩委託 中間処理後 の処分方法	⑪資源化の用途																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	行 番					百 万	十 万	万	千	百	十	一	単位	1次 処理	2次 処理	3次 処理	百 万	十 万	万	千	百	十	一									単位	1次 処理	2次 処理			3次 処理																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
記入欄	記	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		</

④中間処理方法コード表

A：焼却
B：脱水
C：天日乾燥
D：機械乾燥
E：油水分離
F：中和
G：破碎
H：分級
I：圧縮

J：溶融
K：切断
L：焼成
M：堆肥化(発酵)
N：銀回収
O：コンクリート固型化
P：乾熱滅菌
Q：煮沸

R：オートクレーブ
S：薬物消毒
T：金属(鉄)回収
U：非鉄金属回収
V：濃縮
W：油化
X：選別
Y：固形燃料化
Z：その他

具体的に

⑥処理・処分方法コード表

<自己処理>
V1：自社で再利用した。
V2：売却できないものを自社で再利用した。
W1：売却(利益があった)した。
Z1：自社で保管している。
Q1：自社の最終処分場で埋立処分した。

<産業廃棄物処理業者等へ委託処理>
X1：処理業者に中間処理(資源化・リサイクルを含む)を委託した。
X2：廃品回収業者、資材納入業者、関連企業等で再生利用した。
S1：処理業者の最終処分場で直接埋立処分した。
T1：処理業者で直接海洋投入処分した。

<市町村等へ委託処理>
R1：市町村等の最終処分場で埋立処分した。
R5：市町村等の清掃工場で焼却等の中間処理した。
R6：市町村等の清掃工場でリサイクルした。

<その他>
Z9：その他

具体的に

⑨委託中間処理方法コード表

A：焼却
B：脱水
C：天日乾燥
D：機械乾燥
E：油水分離
F：中和
G：破碎
H：分級
I：圧縮

J：溶融
K：切断
L：焼成
M：堆肥化(発酵)
N：銀回収
O：コンクリート固型化
P：乾熱滅菌
Q：煮沸

R：オートクレーブ
S：薬物消毒
T：金属(鉄)回収
U：非鉄金属回収
V：濃縮
W：油化
X：選別
Y：固形燃料化
Z：その他

具体的に

⑪資源化用途コード表

10：鉄鋼原料
20：非鉄原料
30：燃料
41：飼料
42：肥料
43：土壌改良材
50：土木・建設資材
51：再生木材・合板
60：パルプ・紙原材料

70：ガラス原材料
80：プラスチック原材料
81：再生タイヤ
90：セメント原材料
91：再生油・再生溶剤
92：中和剤
93：高炉還元剤
98：その他

10～93に該当するものがない場合、
⑪の枠中に具体的な用途を直接記入

<調査票の記入例>

建設業以外

調査対象期間

- この調査の対象期間は、令和6年度（令和6年4月1日～令和7年3月31日）の1年間です。

調査対象とする事業所と廃棄物

- この調査では、調査票が送付された事業所内で発生した産業廃棄物と副産物（有償・無償引渡物）全てが記入の対象となります。
- 廃棄物等の分類については、裏面の「廃棄物分類表」を参考して下さい。

産業廃棄物・副産物の発生量について

- ①の廃棄物等の「名称」とその「年間発生量」の回答欄には、「焼却」、「脱水」等の中間処理を行う前の名称と発生量を記入して下さい。

○自社で焼却している場合、焼却前の名称と発生量を記入して下さい。（事例D）

木くず、紙くず、廃プラスチック等を焼却している場合の「③年間発生量」は、焼却前の発生量となります。

なお、焼却後の灰の量が「⑤中間処理後の量」となります。

○自社で脱水している場合、脱水前の名称と発生量を記入して下さい。（事例E）

汚泥等を脱水している場合の「③年間発生量」は、脱水前の発生量となります。なお、脱水前の発生量を把握していない場合は、下記の式より計算して下さい。

＜式＞：（脱水前の発生量）＝（脱水後の汚泥量）×（100％－脱水後の含水率％）÷（100％－脱水前の含水率％）

- ただし、以下の2種類の廃棄物については、中間処理後の名称と発生量を記入して下さい。

○廃酸、廃アルカリを河川、下水道等へ放流するために中和処理している場合。 → 中和処理後に発生する「汚泥」を「①廃棄物等の名称」に、その発生量（脱水前の発生量）を「③年間発生量」に記入して下さい。

調査票(その2)の記入例

事例A～Fの記入例を下記の通り示しますので参考にして下さい。

本紙の裏面の「廃棄物分類表」を参照して下さい。

該当する単位に、必ず○をつけて下さい。

微量又は液状廃棄物を焼却し、焼却灰が1kg未満の場合は、「0(ゼロ)」を記入し、単位はkgに○を付けて下さい。

区分	行番	①廃棄物等の名称	②分類番号	③年間発生量								単位	→	④方法番号								単位	→	⑥処理・処分方法	⑦処理・処分先又は再生利用先の名称	⑧処理・処分先又は再生利用先の所在地	所在地コード	⑨方法番号			⑩委託中間処理後の処分方法	⑪資源化の用途												
				百万	十万	万	千	百	十	一	1次処理			2次処理	3次処理	百万	十万	万	千	百	十							一	1次処理	2次処理			3次処理											
記入例：A	記入欄	1●鉄板くず	1 2 1 0							1	2	kg	㌧	→										kg	t	→	W 1	㈱□□	都道府県	〇〇	市区町村	●●●●●				①2・3・4	10							
記入例：B		2●機械油	0 3 1 1								9	7	2	㏞	t	→									kg	t	→	X 1	××商店	都道府県	〇×	市区町村	●●●●●	E			①2・3・4	30						
記入例：C		3●廃タイヤ	0 6 0 1								4	0	0	㏞	t	→									kg	t	→	X 2	■■■タイヤ販売	都道府県	〇△	市区町村	●●●●●				1・2・3・4	81						
記入例：D		4●木くず	0 8 0 0								1	0		㏞	㌧	→	A								5	0	0	㏞	t	→	S 1	㈱×▼	都道府県	×	●	市区町村	●●●●●				1・2・3・4			
記入例：E		5●排水処理汚泥	0 2 2 0								5	0		kg	㌧	→	B	D								1	0		kg	㌧	→	X 1	□×㈱	都道府県	〇×	▲	〇	市区町村	●●●●●	L			①2・3・4	90
記入例：F		6●感染性廃棄物	7 3 0 0								3	6	0	kg	㌧	→												kg	t	→	X 1	△△産業	都道府県	×	▽	市区町村	●●●●●	A			1・2・③4			
		7																																				1・2・3・4						
		8																																				1・2・3・4						

ここでは、中間処理、再生利用や最終処分した先の名称を記入して下さい。委託した廃棄物が中間処理後に最終処分されている場合は、中間処理業者の名称を記入して下さい。

<p>事例：A</p> <ul style="list-style-type: none">鉄板の加工の際に鉄板くずが年間12t発生した。これは、〇〇市にある㈱□□に売却した相手先では鉄鋼原材料として再利用している。	<p>事例：B</p> <ul style="list-style-type: none">月平均で一斗缶5本ぐらの機械油が発生した。重量換算すると年間に972kgである。（18kg×5本×12ヶ月×0.90＝972kg）これは、▼×県〇×市の処理業者××商店に処理を有料で依頼した。相手先では、油水分離後、燃料として再利用している。	<p>事例：C</p> <ul style="list-style-type: none">年間に廃タイヤが400kg発生した。これは、納入業者である〇△町の■■■タイヤ販売に渡した。■■■タイヤ販売では再生タイヤとして利用している。	<p>事例：D</p> <ul style="list-style-type: none">木くずが年間10t発生した。自社の焼却炉で全て焼却した。焼却灰は、500kg発生し、㈱×▼の最終処分場で直接埋立処分した。	<p>事例：E</p> <ul style="list-style-type: none">排水処理汚泥が発生した。自社の施設で脱水→乾燥を行い、乾燥後の残さが10t（含水率85％）であった。脱水前の量は、把握していないので正確ではないが、脱水前の含水率が97％であるため計算すると、50t程度となる。（計算式 10t×（100－85）÷（100－97）＝50t）脱水後の汚泥は、〇×県▲〇市にある□×㈱のセメント製造工場で処理をした。委託先では、セメント原料として再生利用している。	<p>事例：F</p> <ul style="list-style-type: none">感染性廃棄物が年間1,200リットル発生した。これは重量換算すると360kgである。（1,200kg×0.30＝360kg）その処理は×▽市の△△産業に委託し、焼却処理した。焼却後の燃え殻は県外の処分場で埋立処分している。
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

記入について

- 記入対象は、事業活動によって発生する産業廃棄物、有償あるいは無償で引渡している副産物です。

- 同じ種類の廃棄物でも中間処理方法、委託処理先等が異なる場合は、記入欄①から行をかえて記入して下さい。

- 処理業者へ処理を委託している場合は、マニフェスト等を参考にして記入して下さい。不明な部分は、その内容を処理業者に確認したうえで記入して下さい。

④中間処理方法コード表

A：焼却
B：脱水
C：天日乾燥
D：機械乾燥
E：油水分離
F：中和
G：破碎
H：分級
I：圧縮
J：溶融
K：切断
L：焼成（セメント原材料）
M：堆肥化（発酵）
N：銀回収
O：ｺﾝｸﾘｰﾄ固化
P：乾熱減菌
Q：煮沸
R：オートクレーブ
S：薬物消毒
T：金属(鉄)回収
U：非鉄金属回収
V：濃縮
W：油化
X：選別
Y：固形燃料化

⑥処理・処分方法コード表

<自己処理>
V1：自社で再利用した。
V2：売却できないものを自社で再利用した。
W1：売却（利益があった）した。
Z1：自社で保管している。
Q1：自社の最終処分場で埋立処分した。

<産業廃棄物処理業者等へ委託処理>
X1：処理業者に中間処理（資源化・リサイクルを含む）を委託した。
X2：廃品回収業者、資材入業者、関連企業等で再生利用した。
S1：処理業者の最終処分場で直接埋立処分した。
T1：処理業者で直接海洋投入処分した。

<市町村等へ委託処理>
R1：市町村等の最終処分場で埋立処分した。
R5：市町村等の清掃工場で焼却等の中間処理した。
R6：市町村等の清掃工場でリサイクルした。

<その他>
Z9：その他

⑨委託中間処理方法コード表

A：焼却
B：脱水
C：天日乾燥
D：機械乾燥
E：油水分離
F：中和
G：破碎
H：分級
I：圧縮
J：溶融
K：切断
L：焼成（セメント原材料）
M：堆肥化（発酵）
N：銀回収
O：ｺﾝｸﾘｰﾄ固化
P：乾熱減菌
Q：煮沸
R：オートクレーブ
S：薬物消毒
T：金属(鉄)回収
U：非鉄金属回収
V：濃縮
W：油化
X：選別
Y：固形燃料化

⑪資源化用途コード表

10：鉄鋼原料
20：非鉄原料
30：燃料
31：木炭
41：飼料
42：肥料
43：土壌改良材
50：土木・建設資材
51：再生木材・合板
60：パルプ・紙原材料
70：ガラス原材料
80：プラスチック原材料
81：再生タイヤ
90：セメント原材料
91：再生油・再生溶剤
92：中和剤
93：高炉還元剤
98：その他

所在地コード
別紙の「所在地コード表」から8の所在地に該当する4ケタの番号を記入して下さい。

⑩委託中間処理後の処分方法
1 再利用・再生利用した
2 県内の最終処分場で埋立処分した
3 県外の最終処分場で埋立処分した
4 海洋投入している

廃棄物分類表

1. 産業廃棄物（特別管理産業廃棄物を除く）

廃棄物の種類			分類番号
大分類	中分類	小分類	
燃え殻	焼却灰		0100
			0110
		石炭灰	0111
		廃棄物の焼却灰	0112
	廃活性炭・廃カーボン		0120
汚泥（泥状のもの）			0200
	有機性汚泥		0210
	無機性汚泥		0220
	建設汚泥（残土を除く）		0221
廃油			0300
	一般廃油		0310
		鉱物性油	0311
		動植物性油脂	0312
			0320
	廃溶剤		0320
	固形油		0330
	油でい		0340
	油付着物		0350
廃酸			0400
廃アルカリ			0500
廃プラスチック			0600
		廃タイヤ	0601
		自動車用プラスチックバンパー	0602
		廃農業用ビニール	0603
		プラスチック製廃容器包装	0604
		発泡スチロール	0605
		発泡ウレタン	0606
		発泡ポリスチレン	0607
		塩化ビニル製建設資材	0608
紙くず			0700
	建設工事の紙くず		0710
		ダンボール	0711
木くず			0800
	建設工事の木くず		0810
		伐採材・伐根材	0811
		パレット	0820
繊維くず（天然繊維くず）			0900
建設工事の繊維くず			0910
動・植物性残渣			1000
動物系固形不要物			4000
ゴムくず（天然ゴムくず）			1100
金属くず			1200
	鉄くず		1210
		非鉄金属くず	1220
		鉛製の管又は板	1221
		電線くず	1222
ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず			1300
	ガラスくず		1310
		カレット	1311
		廃ブラウン管（側面部）	1312
		ガラス製廃容器包装	1313
		ロックウール	1314
		石綿（非飛散性）	1315
		グラスウール	1316
		岩綿吸音板	1317
	陶磁器くず		1320
		コンクリートくず	1321
		石膏ボード	1322
		ALC（軽量気泡コンクリート）	1323
鋳さい			1400
	スラグ		1403
がれき類（工作物の新築、改築又は除去に伴って生じた不要物）			1500
	コンクリート破片		1501
	アスファルト・コンクリート破片		1502
ばいじん（工場の排ガスを処理して得られるばいじん）			1800

※爆発性、毒性、感染性、腐食性などの有害な性状を有している廃棄物は、
下側の特別管理産業廃棄物の分類表をご参照下さい。

廃棄物の種類			分類番号
大分類	中分類	小分類	
建設混合廃棄物			2000
	安定型建設混合廃棄物		2010
	管理型建設混合廃棄物		2020
		新築系混合廃棄物	2021
		解体系混合廃棄物	2022
安定型混合廃棄物			2100
管理型混合廃棄物			2200
石綿含有産業廃棄物			
	建設混合廃棄物		2410
	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず		2420
	廃プラスチック類		2430
	がれき類(工作物の新築、改築又は除去に伴って生じた不要物)		2440
	紙くず		2450
	木くず		2460
	繊維くず(天然繊維くず)		2470
水銀使用製品産業廃棄物			
	電池類		2510
	照明機器		2520
	医薬品等		2530
	電池類、照明機器、医薬品等、水銀回収義務付け製品以外の製品		2540
	水銀回収義務付け製品(計測器以外)		2550
	水銀回収義務付け製品(計測器)		2560
水銀含有ばいじん等			
	ばいじん		2610
	燃え殻(基準値を超える有害物質を含むもの)		2620
	汚泥		2630
	廃酸		2640
	廃アルカリ		2650
	鋳さい		2660
シュレッダーダスト			2300
廃自動車			3000
	廃二輪車		3010
		バイク	3011
		自転車	3012
廃電気機械器具			3100
		廃パチンコ機及びパチスロ機	3101
		プリント配線板	3102
		テレビジョン受信機	3103
		エアーコンディショナー	3104
		冷蔵庫	3105
		洗濯機	3106
		電子レンジ	3107
		パーソナルコンピューター	3108
		電話機	3109
		自動販売機	3110
		冷凍庫	3112
廃電池類			3500
	鉛蓄電池		3510
	乾電池		3520
複合材			3600

2. 特別管理産業廃棄物

燃えやすい廃油		7000
	燃えやすい廃油（基準値を超える有害物質を含むもの）	7010
pH2.0以下の廃酸		7100
	pH2.0以下の廃酸（基準値を超える有害物質を含むもの）	7110
pH12.5以上の廃アルカリ		7200
	pH12.5以上の廃アルカリ（基準値を超える有害物質を含むもの）	7210
感染性廃棄物		7300
特定有害産業廃棄物		7400
	廃水銀（処分するために処理したものを含む）	7440
	廃石綿等（飛散性）	7421
	指定下水汚泥	7422
	鋳さい（基準値を超える有害物質を含むもの）	7423
	燃え殻（基準値を超える有害物質を含むもの）	7424
	廃油（基準値を超える有害物質を含むもの）	7425
	汚泥（基準値を超える有害物質を含むもの）	7426
	廃酸（基準値を超える有害物質を含むもの）	7427
	廃アルカリ（基準値を超える有害物質を含むもの）	7428
	ばいじん（基準値を超える有害物質を含むもの）	7429

所在地コード表

所在地	所在地コード	所在地	所在地コード
北海道	0100	三重県	2400
青森県	0200	滋賀県	2500
岩手県	0300	京都府	2600
宮城県	0400	大阪府	2700
秋田県	0500	兵庫県	2800
山形県	0600	奈良県	2900
福島県	0700	和歌山県	3000
茨城県	0800	鳥取県	3100
栃木県	0900	島根県	3200
群馬県	1000	岡山県	3300
埼玉県	1100	広島県	3400
千葉県	1200	山口県	3500
東京都	1300	徳島県	3600
神奈川県	1400	香川県	3700
新潟県	1500	愛媛県	3800
富山県	1600	高知県	3900
石川県	1700	福岡県	4000
福井県	1800	佐賀県	4100
山梨県	1900	長崎県	4200
長野県	2000	熊本県	4300
岐阜県	2100	大分県	4400
静岡県	2200	宮崎県	4500
愛知県 名古屋地区	2301	鹿児島県	4600
愛知県 尾張地区	2302	沖縄県	4700
愛知県 知多地区	2303		
愛知県 豊田地区	2304		
愛知県 西三河地区	2305		
愛知県 豊橋地区	2306		
愛知県 東三河地区	2307		



愛知県は、市町村により7つの地区に区分されています。
記入間違いの無いよう注意して下さい。

所在地コード	地区	愛知県内の市町村
2301	名古屋地区	名古屋市
2302	尾張地区	一宮市、瀬戸市、春日井市、犬山市、江南市、小牧市、稲沢市、尾張旭市、岩倉市、豊明市、日進市、清須市、北名古屋市、長久手市、東郷町、豊山町、大口町、扶桑町、津島市、愛西市、弥富市、あま市、大治町、蟹江町、飛島村
2303	知多地区	半田市、常滑市、東海市、大府市、知多市、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町
2304	豊田地区	豊田市、みよし市
2305	西三河地区	岡崎市、碧南市、刈谷市、安城市、西尾市、知立市、高浜市、幸田町
2306	豊橋地区	豊橋市
2307	東三河地区	豊川市、蒲郡市、田原市、新城市、設楽町、東栄町、豊根村